

◆ News Release ◆

株式会社阪急交通社

阪急交通社グループ 旅行概況(5 月分)について

2023 年 5 月の旅行取扱実績について、下記のとおりお知らせします。

株式会社阪急交通社

(単位: 千円)

区 分	取扱高	前年 同月取扱高	前年 同月比	2019 年度 同月取扱高	2019 年度 同月比
海 外 旅 行	5,516,807	99,585	5,539.8%	19,295,275	28.6%
国 内 旅 行	15,873,624	10,416,928	152.4%	13,556,086	117.1%
訪 日 旅 行	390,981	495	78,986.1%	427,892	91.4%
合 計	21,781,412	10,517,008	207.1%	33,279,253	65.5%

【概況】

5 月の営業概況は、総取扱額 217 億 8,141 万 2 千円、2019 年度同月比 65.5%となりました。海外旅行は、国際線定期便の復便が 6 割まで進みましたが、5 月の出国日本人数は 2019 年度比 47%で、依然として回復が停滞しています。一方、5 月 8 日に新型コロナウイルス感染症が 5 類に移行されたことで、帰国時の各種証明書が不要になり、渡航環境はコロナ前に戻りました。当月の業績には反映されませんが、今後夏から秋にかけては、海外旅行の需要回復が進むと考えられます。こうした中、当社では、アジアや欧州、アメリカを中心に継続的に募集告知を行なった結果、欧州の集客が伸長し、韓国、台湾を上回って 1 位となりました。このように一定の活性化の兆しが見られたものの、海外旅行全体では、2019 年度同月比で 28.6%と本格的な回復には至りませんでした。

国内旅行は、全国旅行支援が継続される中、新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたことで、本格的な旅行需要の回復が見込める環境のもと、当社では、「全国旅行支援」対象商品をはじめ、観光シーズンを迎えた日本各地の旅行商品を積極的に募集告知しました。本島・離島ともに人気の沖縄、新緑の東北、立山黒部アルペンルートが需要を牽引した北陸・甲信越など、周遊型の旅行が好調に推移しました。前年度同月比 152.4%、2019 年度同月比では 117.1%と、大幅に好転しました。

株式会社阪急阪神ビジネストラベル

(単位:千円)

区 分	取扱高	前年 同月取扱高	前年 同月比	2019 年度 同月取扱高	2019 年度 同月比
海外旅行	2,284,687	1,585,696	144.1%	3,417,421	66.9%
国内旅行	142,661	139,375	102.4%	237,249	60.1%
訪日旅行	0	0	—	50,746	0.0%
合 計	2,427,349	1,725,073	140.7%	3,705,417	65.5%

※前年および 2019 年度同月取扱高は、阪神トラベル・インターナショナルの取扱高を合計し、2 社内取引を相殺したものです。

【概況】

5 月の営業概況は、総取扱額 24 億 2,734 万 9 千円、前年同月比 140.7%、2019 年度比では 65.5%となりました。

海外旅行は、中国を中心に全方面が回復傾向にあり、MICE 関連の取扱いも増加しました。国内旅行は、出張の取扱いがコロナ前の水準まで復調し、企画旅行も漸増傾向で回復が進んでいます。

グループ2社合計取扱額

株式会社阪急交通社、株式会社阪急阪神ビジネストラベル

(単位:千円)

区 分	取扱高	前年 同月取扱高	前年 同月比	2019 年度 同月取扱高	2019 年度 同月比
海外旅行	7,707,083	1,684,684	457.5%	22,675,838	34.0%
国内旅行	15,987,007	10,531,512	151.8%	13,682,936	116.8%
訪日旅行	390,981	495	78,986.1%	478,638	81.7%
合 計	24,085,072	12,216,693	197.1%	36,837,412	65.4%

※グループ内取引を相殺したものです。

<本件に関するお問い合わせ先>

株式会社阪急交通社 広報部

〒105-0004 東京都港区新橋 3-3-9 TEL:03-6745-7333 / FAX:03-6745-7351

〒530-0001 大阪市北区梅田 2-5-25 TEL:06-4795-5711 / FAX:06-4795-5724